「県視協通信」　第１０３号

２０１９年６月



発行所　公益社団法人静岡県視覚障害者協会

〒420-0856 静岡市葵区駿府町1-70

　　　　　 静岡県総合社会福祉会館内

電話・ファックス　054-251-8090

Eメールアドレス　info@shizuoka-kenshikyo.org

ホームページアドレス

http://www.shizuoka-kenshikyo.org/

　　　　　　　　　　　　　 発行人　　須藤正起

　　　　　　　　　　　　　 編集人　 市川健悟

目次

巻頭言　会長　須藤正起　　　　　　・・・・・１ページ

ＡＩスピーカー使用レポート　　副会長　伊藤定善

　　　　　　　　　　　　　　　　　・・・・・3ページ

思いつくまま雑記帳　施術所の届け出済み証明ステッカーと視覚障害者に便利なアプリ　　熱海支部長　　菊池一郎

　　　　　　　　　　　　　　　　　・・・・・5ページ

浜松と言えば　　浜松支部　市川健悟　・・・・・9ページ

この現実の中で　　沼津支部長　　樋口勝　・・11ページ

新しい自分　　富士宮支部　篠原孝輔　・・・・13ページ

事務局からのお知らせ　　・・・・・17ページ

編集後記　　・・・・・19ページ

巻頭言

会長　須藤正起

　県視協会員の皆様こんにちは。令和元年を迎え、気持ちも新たに頑張ろうという意気込みでおりますが、今号が発行される6月には例年通り、定時総会があり、本年度は改選の年という事で、慌しく過ぎてしまうのではないかと思われます。

　さて、事業についての報告ですが、ここ数年、川勝知事との懇談会を実現すべく要請を行って参りましたが、年度末に実現致しました。私を含め、3名の副会長と事業部長、事務局次長の6名で県庁を訪れ、川勝知事に直接、視覚障害あはき業の現状と情報保障について問題点等を提起し、解決に向けての要望、要請を行いました。今後も、直接対話の機会を設けていただけるようお願いし、短い時間ではありましたが、初回にしては有意義な懇談になったかと思います。

　次に、3年程前から継続して県健康福祉部長に「法律に基づく保健所への届済証」の交付を要望してまいりましたが、平成30年3月1日付けで申請が許可され静岡県と政令指定都市として浜松市での交付が可能となりました。これは、あはきの免許を保有し、且つ施術所を開所されている場合に各保健所への申請で交付されるものです。有資格者のみが施術所に掲示することができますので、無資格者との差別化を図れる物として、是非、申請手続きを行うようお願い致します。

　今年度から「ＩＴ機器使用訓練等事業」を県から委託し、新事業として開催いたします。この事業は、少人数でのＩＴ機器操作方法等の指導が受けられ、今までの研修事業よりも個人の理解力を深められるものとなっており、また、ＩＴ機器の使用方法を視覚障害者へ指導する立場の協力者を育成する研修会の開催も行う事ができます。主に、開催を企画するのは、役員を中心に各地区で行っていただく事になります。新事業という事で、まだ手探りの状態ですが、企画案等ありましたら役員へお声掛けお願い致します。

　最後に私事ですが、3月末に日盲連指導者研修会とあはき委員会へ出席しました。昨年、日盲連の理事にというお話を頂き、日盲連あはき協議会の小川会長からの後押しもあり、竹下会長より「あはき業関連を頼む」との言葉を受け、悩んだ末にお受けする事に致しました。というのも、ここ近年でのあはき業に関連する動きに、関連団体と連携しつつ活動を続けて参りましたが、現状での各視覚障害者団体の発言力の弱さ、福祉団体と位置づけられる事への憤りは、年々増すばかりでした。本来、視覚障害者の天職としてのあはき業が、保険の取扱や無資格者の横行で、晴眼者に引けを取る事はあってはならないと考えております。若輩の身でどこまでできるかわかりませんが、精一杯頑張りますので、会員の皆様にもご協力をよろしくお願い致します。また、役員改選に伴い、各地区から推薦される理事・監事に変更が有ろうかと思います。ここで役員を降りられる方はお疲れ様でした。

新規役員となられる方には、今後ご協力をよろしくお願い致します。

ＡＩスピーカー使用レポート

　　　　　　　　　　副会長　伊藤定善

　我々の中でも少し話題のＡＩスピーカー、私は昨年の４月から５月にかけて臨時収入があったお陰で、グーグルホームとアマゾンエコーの二つを使うことになりました。

　以下、google home をG、アマゾンエコーをAと表して進めます。気になる価格、Gは15000円くらい。

Aは12000円弱程度です。どちらにも小型バージョンがあり、体が小さい分音が今一つなのですが、機能は同じで価格は半分以下です。

　ワイファイルーターがあるという環境が必要で、スマホやIPHONEでセッティングをします。これがなかなかのネックで、ルーターに紙に書いて貼り付けてある暗証番号の入力やID・パスワードの入力、在住地域の設定など必要で、このとき目が必要になるかもしれません。

　セッティングができたら、言葉で命令します。

　OK google（またはネー　グーグル）と呼びかけ、続けて「ＮＨＫラジオ第１をかけて」とか、「今何時？」「今何度？」「５分経ったら教えて」「明日の東京の天気は？」

等々、傍に女性秘書がいるような気分で命令します。音声時計のボタンは手が濡れたり、汚れていると押したくありませんが、声で命令です。音楽を聞くには、Gの場合は「グーグルプレイミュージック」かスポティファイと契約、Aはアマゾンミュージックやｄヒッツと、いずれも月々千円以内で契約できます。「オーケーグーグル、美空ひばりのお祭りマンボかけて」とか「ハービーハンコックかけて」のように言うと、間もなくリクエスト曲がかかります。Aは元々の機能に加え、「スキル」というのが２千以上も用意されていて、いろいろな機能を追加していくことができます。

　我が家の台所に置いてあるGは、ラジオをかけさせていることが多いです。治療室に置いたAで音楽をかけたいのですが、著作権法上、いけないことのようです。

　音質を比べるとAがやや勝るように思います。Aはミニステレオプラグが使えるジャックもあって、プレックストークやパソコンへの録音も可能です。

　使い始めて１年以上が経過していますが、便利さ・楽しさで、機械に飽きるような感覚はありません。詳しいことを知りたい方、どうぞ何でも聞いてくださいね。

思いつくまま雑記帳　施術所の届け出済み証明ステッカーと視覚障害者に便利なアプリ

熱海支部長　菊池一郎

4月6日（土）

（1）

静岡県では平成31年3月から、有資格者と無資格業者との差別化をはかるために、「施術所の届け出済み証明ステッカー」の公布を開始している。申請書を県のホームページよりダウンロードして、それを最寄りの保健所に提出し、出来上がった物を受け取りに行く（あるいは郵送してもらう）のだが、早速自分も、先月の半ばに熱海保健所に申請書類を提出し、今週の火曜日にそれを取りに行った。

ステッカーというので、簡単なシールのような物を想像していたのだが、予想に反してそれは、大きさが縦20センチ、横３０センチほどもあり、外に貼っても破れないように表面がフイルムでコーティングされた結構立派な物だった！

きれいなオレンジ色を背景に、白抜きの文字で、「この施術所は、あんまマッサージ指圧師、鍼師、灸師等に関する法律に基づき、国家資格者が静岡県に届け出を行った施術所である」旨が、はっきりと表記してある。

ちなみに我が家は玄関のインターフォンの上にある格子窓の所に両面テープで張り付けてみたのだが、外から見てもかなり目立つようなので、これは皆さんにも是非お勧めしたい。

（2）

iPod touchを使い始めてから早半年になるが、そのほとんどはNHKラジオの「ラジルラジル」の「聞き逃しサービス」を聞いたり、「ユーチューブ」の動画や音楽の視聴、あとは

時々、アマゾンで買い物をするぐらいである。

世の中には視覚障害者にとって便利なアプリが、まだまだたくさん存在している。

先日インストールした「色彩ヘルパー」と「OCR」の使い方も今一よくわからないままなのだが、一昨日、「衣服の色調べ」と、電気の明るさなどを感知することのできる「Light Detector（ライトディテクター）」というアプリを落としてみることにした。

前者は衣服の色と柄をかなり正確に認識して音声で説明し、後者は光の明るさを「ピョ～～～～ン！何パーセント」といった具合に教えてくれるので、この二つは何とか使えそうな感じである。

あとは「Tap Tap See（タップタップシー）」というアプリも評判がよさそうなので、一応、ダウンロードだけはしてみたが、まだ開いてはいない。それと「Be My Eyes（ビーマイアイズ）」をDLしようと思ったら、なぜか「この言語には対応していません」と表示されてしまい、結局その晩は入手することはできなかった。その後、いろいろと試してみたところ、とりあえずDLには成功し、名前とIDとパスワードの

入力に少々手間取ったものの、何とかそれも無事に済んで、登録だけは完了した。

（3）

昨朝、セブンミールに注文しておいた商品が届いた。とりあえずそれらの商品を「OCR」のカメラで撮影し試してみたところ、「赤マーボー丼」と「ロースカツ丼」は読み上げてくれた。

残りの商品については、登録が済んだばかりの「ビーマイアイズ」を使ってみることにした。ネットの電話回線で、近くにいたボランティアさんと無事につながり、「左がカルボナーラで右がナポリタン」であることを、すぐに口頭で教えてもらうことができた。「こんなに便利で助かるものなのか！」と思わず感動してしまった。

その後、同行のヘルパーさんに「色彩ヘルパー」について見てもらったところ、何でいろいろとしゃべる色がその都度変わるのかといえば、「光の当たる加減で画面に映る色が変化してしまうため」とのことである。

別にiPod touchが「嘘をついている」わけではなかったのである！（笑）

浜松と言えば

浜松支部　市川健悟

　浜松市の総人口は約７９万人。静岡市と共に政令都市となった平成１７年の８２万余りから、現在は３万人近くの減少をきたしています。市の面積は高山市に続き、第２位の１５５８平方キロと山岳地域を含む、かなり広大な面積を有しています。ちなみに静岡市は、全国第５位の１４１２平方キロ余りとなっているそうです。

　戦前から楽器、綿織物が盛んで、これにオートバイが加わった３大産業の都市として発展してきましたが、繊維製品の衰退に伴って、自動車産業、最新の光技術やエレクトロニクス分野が台頭してきました。企業として、スズキ、ヤマハ、ホンダ、カワイ、浜松ホトニクス、ローランド、エフ・シー・シーなどが知られています。

　ところで、浜松と言えば皆さんがまず頭に浮かべる食べ物は何でしょうか？

なんと言っても「うなぎ」が最初に浮かぶのではないでしょうか。続いて、浜名湖の魚介類、とりわけ風味高い牡蠣や海苔、車エビなどをはじめとする沢山の食材が並んでいます。ただ、うなぎは近年、高嶺の花となってなかなか口にできなくなりました。変わって、手軽に楽しめる物としては、日本一の消費量を誇っている餃子とうなぎパイと言うことになりそうです。そこで、今回はこの「浜松餃子」を取り上げてみたいと思います。

　餃子発祥の中国では水餃子が主流ですが、浜松では圧倒的に焼き餃子が好まれています。歴史的には既に大正時代から焼かれていたようですが、爆発的な人気を博したのは戦後からだと言われています。地元のキャベツをふんだんに使い、盛んだった養豚業の肉と油を利用したもので、一度に多く焼くのにフライパンに丸く並べて火を通し、真ん中の空いたスペースに茹でもやしを添えて仕上げるのが特徴です。

　この他、具として使われる野菜やニンニク、ニラなどの量や薬味やたれの味付けにもこだわりがあって、市内に２００店近くある専門店それぞれの特徴と味わいを持っています。そして、近くで焼いてもらった物を持ち帰って、熱いうちに食べる家庭も多く、安くて栄養価の高いこの食べ物は、市民全体に大きな支持を受け、全国的な広がりを見せています。

　また、「浜松餃子学会」と言うボランティア団体があって、浜松餃子マップの作成や各地で行われるグルメイベントなどにも参加し、ホームページも合わせて情報発信をしています。私の近くの専門店にも、県内外から訪れる人たちの様々なナンバーが駐車しているのを見ることができます。

　餃子にはビールが最も合いますので、皆さんがこちらにお見えの際は、この喉越しの良い飲み物と共に是非浜松のB級グルメを食してみられることをお勧めします。

この現実の中で

　沼津支部長　　樋口勝

いつだったか、静点録音図書から「発達障害とアスペルガー症候群について」の録音図書を読み、十の項目がある中で、八つの項目が自分の症状に当てはまりました。『やっぱりそうかい、おいい！』妙に納得を。そうです、自分は物忘れも激しく、記憶力は悪く、理解力にも乏しく新たな物事や事業にはなかなか理解や受け入れることができず、立ち止まってしまい時間がかかってしまう始末です。また落ち着きもなく、一つのことに集中できず直ぐに飽きてしまい、他のことに気持が行ってしまうので何をしてもものになっていません。

　その典型が、親友にパソコンを教えてもらうことになり、その親友は快く教えてくれることになったわけですが、何せ飽きっぽいものですから集中力は乏しく理解力も薄くすぐに飽きてしまいました。その時も２０分持たず、何度も繰り返し教えてくれたのですが、とうとうその友人もあきれ返って「もうだめだ！あんたには教える価値もなく、パソコンをすることには性格が向いていない」と言われてしまいました。それからパソコンには触れていません。

　こんな自分ですが、沼視協の役員はそんな自分に協力していただき、会員にご理解をいただきながら支部長としてやっていくことができたと思っています。また、障害福祉課関係の自立支援協議会、その他役所の会合にはここ３・４年前から自分に補助の方を付けていただいています。それは自分が老人性難聴のため、人の声が効きにくく、特に大勢の中ではざわつきばかりで、何が何だか分からず話の内容が理解できず、困っていることが分かっていただけたので、補助の方を付けてくれるようになったわけです。補聴器もつけていますが、対面での会話はいいのですが、大きな会場、大勢の中での聴き取りは非情に大変です。

　さらに数十年前、健常者と結婚しました。お見合いでわずか２か月ちょっとで結婚し、お互いの性格も性質も訳も分からずにその生活が始まりましたが、１０年・２０年と言うものは夫婦喧嘩が日常茶飯事でした。１０回以上は離婚の危機に見舞われましたが、不思議なもので未だ別れずに何とか家庭生活を営んでいます。現在の日常生活は、お互いが何とか理解できるようになってきて、我ながらほっと胸をなで下ろしている今日です。かと言っておしどり夫婦でもありません。３人の子供は片付きましたが、二人の息子は離婚・再婚の現状です。性格のきつい娘は、結婚生活を全うしています。

新しい自分

　　　　　　　　　　　　　　　　富士宮支部　篠原孝輔

　私が現在こうして、按摩マッサージの仕事に携われるまでには、多くの苦難があったと思います。現在治療している網膜色素変性症は、私が１８歳の時に分かりました。高校生の時に分かったので最初は自分でも理解できませんでした。

　その後は、自分自身の戦いだと今も思っています。これからの将来を決める大事な時に、まさかこのようなことになるとは自分でもどうしたらいいのか分からず、ただもやもやする日々だったと思います。結局、最初に目標にしていたリハビリの仕事に従事するという道もあきらめました。その後はホームヘルパーの資格を取り、介護の仕事に就くことになりました。私は７年もの間、高齢者と携わりました。様々な人と関わるうちに、私も少しずつ変化していったと思います。

　私の視力のことを理解して、様々な場面でサポートして下さる人もいました。サポートして下さる人たちに甘えるだけでなく、私自身も何かその人たちの力になれるようにいろいろなことを考えました。まず、介助など自分のできる範囲で手伝うことから始めました。そして、施設の中の様々なイベントを担当するようになりました。最初はうまく行かず、失敗することもあり、苦労することもありました。支えて下さる皆さんがいたからこそ、私があきらめずに介護の仕事を続けていられたと今でも実感しています。

　やはり視力の方は少しずつ進行してしまい、介護の業務を続けることが難しくなってしまいました。今までお世話になった職場を離れることは、何か寂しいものもありました。しかし、社長が私に掛けて下さった言葉が、私の背中を押してくれたような感じが、今でも心に強く残っています。それは「いつか戻ってくるべき場所がある」と言う言葉でした。『私は一人ではない』そう実感して浜松の盲学校で３年間の勉強をする決意が固まり、２０１５年の３月に施設を退職しました。

　ここからは、私が盲学校で過ごした頃のエピソードについて紹介したいと思います。それは、この３年間で私自身が目まぐるしく変化した、掛け替えのない３年間だと思っているからです。私がここまで強調するのは、私に何かに取り組む意欲を根付かせてくれた出来事がいくつかあったからです。

　まずは野球部の仲間との出会いです。もともとボールがあまり見えず、スポーツにも無関心だった私に、ある在校生から「野球を一緒にやらないか」と言う誘いがかかりました。『私はボールが見えないから力にはなれない』と言いましたが、全盲でもできると言う声に驚き半信半疑で始めました。確かに、みんな楽しそうにプレーしていたし、弱視・全盲の隔てなく参加できることに、私は感動せずにいられませんでした。１年目でいきなり、全国大会に出場するのも正直驚きでしたが、さらに優勝するとはもっと驚かされました。１年目は補欠で、次の大会で最後だと聞いた時は、絶対に輝きたいと心から願い、それからずっと練習に没頭していました。２年目は、私もスタメンの座を勝ち取り、見事に優勝に貢献することができました。何もせず、燻るだけかと思っていた私に、今まで感じたことのない充実感が一気に出てきたと思います。

　もう1つのエピソードは、音楽部の活動です。たまたま野球部のメンバーの多くが音楽部にも在籍しており、あるメンバーがバンドを組みたいと言う提案を持ちかけました。偶然にも楽器演奏ができる仲間がいたため、話はまとまりましたが、私がボーカルに選ばれた時はひどくあせりました。人前で歌うことにコンプレックスを抱いていたからです。しかし、その困難も今まで仲間と築き上げた絆で克服することに成功し、人前でも恥ずかしさを全く感じずにいられるようになりました。

　按摩の技術を向上させるため、様々な取り組みも考えました。学校だけでなく、前の職場に足を運びマッサージの練習をしました。腰痛がひどくなり、介護の仕事を離れるスタッフが多いため、私は職員の心身のケアをする仕事をしたいと心に決め、ヘルスキーパーになりたいと決意して前の職場に戻ることにしました。

　現在は６箇所の施設を日替わりで回り、利用者様と職員のマッサージを主に行っています。今までと利用者様たちの接し方が変わりましたが、昔築いた経験を忘れず、さらに生まれ変わった新たな自分で、新たな道を切り開きたいと考えております。

事務局からのお知らせ

1. 訃報のお知らせ

静岡支部の青木良之さんが令和元年５月８日にご逝去されました。

謹んでお悔やみを申し上げます。

2. 免許保有証申請について

本年度も７月から８月にかけて、免許保有証の申請の受付を開始します。申請される方は早めに事務局へご連絡をお願い致します。

3. ご寄付と収益事業にご協力をお願いします

本年度も引き続き視覚障害福祉活動に対し、会員の皆様からのご支援ご協力を賜りたいと思います。書き損じハガキ等ご寄付の受付と麺類販売事業を行っております。年々ご協力者が減少傾向にあります。組織運営の安定を図るためにも是非、ご協力をよろしくお願い致します。

4. 事務所の夏期休暇について

今年の夏期休暇は、事務所の閉鎖は行いません。通常通りとなりますのでご承知おきください。

5. 寄付者のご紹介

　２月１１日から５月１０日までにご寄付をいただいた方は、匿名の方1名でした。温かいお心遣いをいただきありがとうございました。

編集後記

通信担当　市川健悟

　最も過ごしやすい季節を迎えていますが、この通信６月号が届く頃は、鬱陶しい梅雨のさ中かと思います。体調にはくれぐれもご自愛ください。

　今号は、会員の皆様から戴いた原稿を中心に、特にテーマを決めることなく編集しました。原稿をお寄せいただきました方々に感謝いたします。

　５月１日には祝賀ムードの中、令和元年がスタートしました。初めて日本の古典「万葉集」から取られたこの元号、最後にその元となった原文と口語訳をご紹介し、６月号を閉じることとします。

万葉集第32番 初春の令月にして、気淑く風和ぎ、梅は鏡前の粉を披き、蘭は珮後の香を薫らす

天平二年正月十三日に、大宰師の大伴旅人の邸宅に集まりて、宴会を開く。時に、初春の好き月にして、空気はよく風は爽やかに、梅は鏡の前の美女が装う白粉のように開き、蘭は身を飾った香のように薫っている。

市川健悟

住所　〒431-3121　浜松市東区有玉北町１５３８

電話　053-434-4140

メールアドレス　oidashi@ka.tnc.ne.jp